

アジア・パシフィック地域での活動

世界中の人々に 健康と幸せな生活を

ジョンソン・エンド・ジョンソンの社会貢献活動は世界中で行われています。数多くの活動の中からアジア・パシフィック地域の活動の一部をご紹介します。

A マレーシア Malaysia

マレーシアのパハン州ではHIV感染者が増加しています。特に薬物を使用していた人に顕著に見られます。J&Jは、元薬物使用者が立ち上げた「パハン薬物防止共同体」(Drug Intervention Community Pahang / Dic Pahang) を支援して、2010年に若者を対象に「仲間の教育係 (Peer Educator) プログラム」を中心とした活動を立ち上げました。

これは若者の役割意識をより高めて、薬物やHIV/AIDSについて仲間たちを啓発していく活動です。これまでに仲間の教育係として

HIV/AIDS・薬物使用に関する「仲間の教育係」

トレーニングを受けた45人の若者が、約150人の仲間に啓発活動を行ってきています。



B 韓国 Korea

母乳は生後6カ月までの乳児にとっての完全栄養食だと考えられています。母乳育児の利点は長年の研究により実証されており、免疫系を活性化し、下痢や急性呼吸器感染症から乳児を守ります。

しかし、韓国では母乳育児率が比較的低く、2001～2009年に母乳のみで育児を行っている母親はわずか31%でした。粉ミルクの過剰なマーケティングや母乳育児を敬遠する病院や託児所、そして母親のさまざまな事情が原因と考えられます。

より多くの乳児が 母乳で育てられるように

J&Jは、この状況を改善し、韓国の母乳育児率を高めることを目的として、ユニセフの母乳育児キャンペーンを支援しています。



C 中国 China

近年中国では、高齢者の自殺が深刻な問題となっています。北京自殺研究・防止センターの統計によれば、56歳以上の高齢者の自殺者数は毎年約10万人に達し、中国国内の自殺事例の36パーセントを占めています。

J&Jは、2009年よりBeijing I-Ching Academyと提携し、中国初の全国規模の命の電話「ラブ・デリバリー・ホットライン」を支援しています。

ホットラインは4つの回線があり、それぞれにボランティアの心理学者がついて、毎日カウンセリングを行っています。これまでにこの

高齢者の自殺を防ぐ、 中国初の「命の電話」

ホットラインはおよそ8300名の高齢者を自殺から救っています。



D ベトナム Vietnam

新生児の命を救う 医療従事者の養成



ベトナムでは、新生児の死亡率が依然として大きな問題となっています。実際、政府の改善努力にもかかわらず、毎年1000人あたり10人の新生児が死亡しています。

J&Jは、ベトナム保健省の新生児救命戦略を支援するため、2010年より主要な4つの産婦人科病院と提携し、医師、看護師、助産婦といった医療従事者に対し、新生児蘇生法と産科の緊急処置の研修を実施しています。これまで、424の地方で募集した総勢2500名の医師、看護師、助産婦に対し、研修を実施してきました。これらの地方で生まれる子どもの総数は新生児全体の85パーセントに上ります。

E インドネシア Indonesia

「きれいな水」のための 公衆衛生教育



インドネシアは水源が豊富な国ですが、1億人を超える人々が安全な飲料水を利用できず、そのうちの70%の人々が汚染された水源の水を飲んでいます。公衆衛生の知識・理解が不足していることもあり、毎年数千人もの幼児が水系感染症により死亡しています。

J&Jは、2009年以來、Indonesian Communication Forum on Drinking Water Quality Management (FORKAMI) と提携し、ジャカルタのスラム街に住む子どもたちに公衆衛生教育を提供する「Duta Air dan Sanitasi」プロジェクトを進めてきました。

子どもたちは水の利用、健康、および公衆衛生について学び、さらに生徒自身が変革者となってその知識を地域社会に広げています。

F

シンガポール Singapore



生徒たちに
健康的な食生活を



シンガポールのTeck Whye中学では、経済的に恵まれない家庭に生まれ、1日3回の食事または栄養価の高い食事をとれない生徒が毎年およそ250人います。

J&JはTeck Whye中学と協働し、従来からあった食券配布制度をより包括的なプログラムとして立ち上げました。これによって生徒たちは最低でも1日1回はきちんとした食事ができるようにします。

プログラムは、①家政学の授業による栄養教育②体育の授業による健康とフィットネス活動③学校で提供される昼食による健康的な食生活の育成の3つの要素で構成され実施されています。

G

インド India



HIV/AIDS
予防プロジェクト



インドでは、南アフリカとジンバブエに次いで世界で3番目に多い250～300万人ものHIV陽性者が暮らしています。

J&Jは、2009年以来Population Services International (PSI)と協働して、HIVに感染するリスクが高い集団を対象としたプログラム「Project Saadhan」に取り組んできました。大きな目的は、HIV感染者数を減らすということです。

このプロジェクトではこれまでに、12000人以上もの人々を支援し、HIV感染リスクを減少させるための広報活動を実施し、質の高い予防製品の配布、カウンセリングや検査などさまざまなサービスを提供しています。

アジア・パシフィック
社会貢献親善大使について



アジア・パシフィック・コントリビューションズ・コミッティ (APCC) では、自ら積極的に社会貢献活動に取り組む社員を称えるとともに、各国の代表として交流を図る「アジア・パシフィック社会貢献親善大使」を14の国・地域ごとに任命しています。各国・地域の代表となった親善大使は、任期の1年間、それぞれの社会貢献に対する思いや経験を、各国の大使や、周りの社員、その家族、友人などと分かち合います。2011年で任命式は第5回目を迎えました。

健全な社会づくりと生活の質の向上に貢献した方々を称える

ヘルシー・ソサエティ賞

ヘルシー・ソサエティ賞とは

ヘルシー・ソサエティ賞は、学術・教育、医療、政治、ボランティア・市民活動などを通して、人々の健康、地域の保健、クオリティ・オブ・ライフ向上に多大な貢献をした個人、あるいは組織のリーダーを顕彰する目的で、公益社団法人日本看護協会とジョンソン・エンド・ジョンソン グループによって2004年に創設された賞です。

5つの受賞部門

ヘルシー・ソサエティ賞には下記の5つの部門があります。

■教育者部門

教育を深め、人々に更なる知識を与えた実績を対象とします。

■ボランティア部門

チャリティー活動等、非営利団体に活躍されている方、もしくは市民としての活動等で国内・国外で指導的役割を果たしている方を対象とします。

■医療従事者部門

社会的に不利な立場にあり援助を必要としている方々のケアのために特別な努力をされた方を対象とします。

■公職部門

通常求められている職務の範囲を超えて、国民または地域住民のために積極的な努力をされた方を対象とします。

■青年部門

30歳以下の青年で、他者のよりよい人生を送る助けとなる素晴らしい活動を行った方、または継続して行っている方を対象とします。

審査のプロセス

各界の著名な有識者8人からなる審査委員会の厳正なる審査によって受賞者が選出されます。



2012年4月10日、東京・千代田区の帝国ホテルで行われた第8回授賞式

第8回の受賞者のみなさん

平成23年度第8回のヘルシー・ソサエティ賞は、以下の3部門6名の方が受賞されました（敬称略）。

●教育者部門（国内）

片田敏孝
群馬大学大学院 工学研究科 教授

●教育者部門（国際）

赤木洋勝
有限会社国際水銀ラボ 所長

●ボランティア部門（国内）

國松孝次
認定NPO法人 救急ヘリ病院ネットワーク 理事長

●ボランティア部門（国際）

楠川富子
JICA シニア海外ボランティア、カンボジア国立小児病院 看護部長

●医療従事者部門

秋山正子
株式会社ケアーズ 代表取締役、白十字訪問看護ステーション 統括所長

●医療従事者部門

大森安恵
海老名総合病院・糖尿病センター センター長、東京女子医科大学 名誉教授